

株式会社アニマックスブロードキャスト・ジャパン

アニマックス 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2025年（令和7年）12月
2. 開催場所 恵比寿ガーデンプレイスタワー20階会議室Room D
3. 委員出席  
委員総数 7名  
出席委員数 7名（対面参加6名、書面参加1名）  
出席委員の氏名 重村 一（委員長）  
内山 隆  
高橋 望  
金子 ありさ  
森川 美穂  
小牧 次郎  
樹林 ゆう子（書面参加）
4. 議題
  1. アニマックスとキッズステーションの「放送番組の編集の基準」変更について
  2. 審議作品  
「ニャイト・オブ・ザ・リビングキャット」第1話（26分）第2話（25分）  
放送日程：初回放送2025年7月26日から 毎週土曜21:30～（アニマックス）  
  
審議作品概要：猫に触れた人間を猫に変えてしまうウィルスにより、全世界でニャンデミックが発生する中、愛する猫を前に「モフリたい」という抗いがたい衝動と、「猫になってしまう」恐怖の間で葛藤しながら、必死に猫だらけの世界を生き抜くサバイバル・ネコメディです。
5. 議事の概要
  1. アニマックスとキッズステーションの放送番組の編集の基準が、旧放送法

の内容になっているため、現状の放送法に沿った文言へと変更します。

2. 議事進行を重村委員長に委任し、従前に視聴していただいた審議作品について、参集いただいた各委員より、以下の内容についてご意見をいただく形式とした。

1. 本作品のご感想、表現やテーマ等でお気づきの点など。
2. 人間と猫の関係性の描き方には、どのようなメッセージ性を感じましたか？
3. 同系統の“猫”や“ホラーコメディ”作品と比較して、差別化されている点。
4. 本作品が国内・国外で話題を獲得するために必要なものは何だとお考えでしょうか。

## 6. 審議内容

- ・ パロディが多く取り入れられており、斬新さはあまり感じなかった。鬼滅の刃、猿の惑星などさまざまな要素が入っていて無難に面白くまとめているという感じがあった
- ・ タイトルを含め、様々な有名作品が出てくる部分をパロディとして取り扱っていて面白かった。
- ・ 猫のウィルスがどこから発生したのか、どういったメッセージ性を含んでいるのかが気になる。
- ・ 猫が「敵」になって人間を猫化し、絶滅させにくるというストーリーは斬新。
- ・ 色彩のカラーがよく、映像的にはよくできていた。これから先にどう話がダイナミックに展開するのか難しそうに感じる。
- ・ 話題をどう作っていくか。放送はプロモーションで、収益はオンデマンドにしていく形に変えていかないといけないのではないか。
- ・ 結論が見えてしまっているがどういうテーマに結びつくのかが気になる。続けて観たいかというところは何とも言えない。
- ・ アニメーションは緊迫感がある演出だった。しかし、話の顛末がどこに行きつくのかが気になる。
- ・ 今作は没入できて退屈しない良い作品だった。猫派の方々にとっては受け入れやすい作品だと思ったが、犬派の方々はどう考えるのか気になる。
- ・ 他のホラーコメディとは違うと感じる部分があまりなかった。着想、発想は独特。西

欧型のゾンビ型ホラーに似ているので海外にも刺さるのではないかと思った。

- ・ 面白かった。今までの審議会で観たものとタイプが違い、大人でも面白がれる。男性にも刺さるように三池さんが監督を務める部分が、戦略的でとても良い試みだと思う。犬派なので犬だったらもっと面白いかもと思った。
- ・ 茶番なので中だるみしそうなところも感じた。ダークな設定があるが、猫の可愛さが勝って行ってしまうのでこの体を取りながら、猫でほっこりする、愛でる作品だという方向にシフトチェンジしていくことができると長く愛されるシリーズになるのではないかと思った。
- ・ 猫が出てくるアニメは多くあるが、ウィルスとかけあわさっているというテーマ・切り口が斬新。
- ・ 現在、人間社会も何かと共存して生きていくというフェーズに差し掛かっているので人類との共存という隠れたテーマが面白く感じた。日本ではあまりないゾンビを題材にしたこのアニメは、人間の葛藤が描かれている面白さがあった。
- ・ 登場人物のセーラー服、黒髪ストレートヘアは日本のカルチャーの一つなので、そういったところがもう少し出てくれば海外向けでも楽しんでもらえるのではないかと。
- ・ 犬派にとってはホラーコメディに感じた。猫は日本で根強い人気がある。
- ・ 作中に出てくる様々な作品と掛け合わせたIPの使い方をしていくなどができれば海外展開ができそう。
- ・ 猫のビジュアルは基本可愛いので、暴力的な描写もまったくなく、子どもにも安心して見せられる作品になっている。ホラーコメディとして、暴力的・残虐なシーンが一切なく、その点は好感を持てた。
- ・ 猫が相手なのでスリルは感じられない一方で、それほどギャグ要素が多いわけでもなく、コメディなのかホラーものなのか、見る側の立ち位置がいささか曖昧なので、居心地の悪さが少し感じられる。
- ・ この作品はグッズが作りやすいため、グッズから作品を展開させていくことも検討できるとよい。

## 7 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

1. 放送番組の編集の基準の変更について、承認を得られた。
2. 番組演出の改善点など、今後作品をよりよくしていくためのアイディアも多く教示いただきました。こうした各員からのご意見を制作者に共有し、今後の制作の参考として参ります。

以上